早稲田大学スポーツ科学学術院スポーツ科学研究センター　主催

第238回スポーツサイエンス研究会

日時　2024年6月20日（木）15:30 より
場所　早稲田大学所沢キャンパス 100号館第一会議室

演題　**長生きの秘訣は子ども期にあり？**
～生活習慣病予防に関する疫学研究の挑戦～

演者　**城所 哲宏 先生**
(日本体育大学体育学部 准教授)

抄録

2022年、医学界のトップジャーナルであるThe New England Journal of Medicineに、子ども期の健康状態（体格、血中脂質、血圧など）が将来（35年後）における生活習慣病の発症と関連していることが報告され、大きなインパクトを与えた。また、生活習慣病の主な原因である動脈硬化は子ども期に開始することや、子ども期のリスク（脂質代謝など）が成人後にトラッキングすることも明らかになりつつある。こうした研究成果は、病気を未然に防ぐ予防医学の観点から、子ども期における健康づくりの重要性を支持するものである。我々は長野県佐久市をフィールドとした生活習慣病予防に関する疫学研究を立ち上げ、これまで6000名を超える子どもの身体活動・体力・生活習慣病リスク（脂質代謝等）を収集し、研究成果を報告してきた。一方、子どもの疫学研究において、エンドポイント（死亡や病気発症）のデータが利用可能なことは極めて稀であり、データ分析の際には工夫が必要となる。また、暴露要因（例、身体活動や体力）の評価方法に加え、学校現場（例、教員や保護者）とのやり取りなど、「質の高い」疫学調査を実施するためには、注意すべきポイントがある。さらに、当該研究分野の発展には、長期的な前向きコホート研究が必要であるが、実現は容易でなく、実際、こうした研究は非常に限られている。

本セミナーでは、当該研究分野における研究実施の工夫や課題、そして今後の展望についてお話したい。

早稲田大学 スポーツ科学学術院
Faculty of Sport Sciences, Waseda University

世話人：前田清司・石津達野・安永太地
早稲田大学　スポーツ科学学術院
E-mail: t.ishizu@aoni.waseda.jp